

旭日小綬章受章記念・李雪峰先生「来日講演と懇親晩餐会」

# 日台の絆を深めた李雪峰氏講演会

李登輝元総統と蔡焜燦氏の来日中止にもかかわらず二百名が参加

本誌編集部



## ◆叙勲を祝した初の催し

李登輝元総統は体調が整わず、急遽来日が中止となり、名代に指名された蔡焜燦・李登輝民主協合理事長も突然の体調不良に襲われて来日できず、前代未聞の事態に講演会開催そのものが危ぶまれました。しかし、李雪峰・台湾高座会会長がお二人から名代を指名されて快諾、五月十日、無事に「李雪峰先生・来日講演と懇親晩餐会」の開催に漕ぎつけました。

李元総統や蔡焜燦氏の講演を楽しみにしていた方には申し訳ない次第とな

り、キャンセルが続出したものの、会場となった東京目黒区の目黒雅叙園には二百名を超える方々が集い、中には遠くアメリカや沖縄などから駆けつけた方もいました。

午後二時の定刻にはじまった講演会は、李雪峰氏が春の叙勲で旭日小綬章を受章されたことから「旭日小綬章受章記念」と銘打たれ、叙勲を祝した催しはこれが最初となりました。

第一部の講演会は、本会の王明理・理事（台湾独立建国聯盟日本本部委員長）の司会により進められ、まず小田村四郎会長が開会の挨拶で、李雪峰氏の叙勲を祝すとともに台湾少年工の歴

史などを手短に紹介しました。

続いて、今回の経過について柚原正敬事務局長が報告。李元総統の日本招聘が一昨年から始まり、昨年九月には快諾されていたにもかかわらず、三月末から体調を崩して回復に時間がかかって来日中止となったものの、台湾内での行動にはほとんど支障がないことや、蔡焜燦氏の体調も回復しつつあることなどを報告しました。

次に渡辺利夫・拓殖大学総長と田母神俊雄・元航空幕僚長が来賓として挨拶。渡辺総長は、拓殖大学に留学している台湾人学生の両親から東日本震災に三百万円の義捐金をいただいたこ



李雪峰会長の叙勲を祝しつつ台湾少年工のことを開  
会挨拶で紹介する小田村四郎会長。

と、拡大が台湾協会学校として始まったことなど、台湾と深い関係を持って  
いることを述べ、個人としても台湾の  
存在は大きくなっていると述べられま  
した。また田母神氏は、昨年十二月に  
初めて台湾を訪問したおりに初めて李  
元総統にお会いし、戦闘機購入にまつ  
わるお話を聞いて一流の政治家である  
ことに感銘したことや、日本人を神様  
として祀る飛虎將軍廟や富安宮などを  
訪問して台湾の人々の親日ぶりに触れ  
た感銘について述べられました。

### ◆台湾高座会と日本

続いて、この日のために来日した李  
元総統秘書の早川友久氏が李元総統か  
らの「台湾なくして日本なく、日本な  
くして台湾は存立し得ない」と喝破す  
る力強いメッセージを代読、また、杉  
本拓朗・本会青年部長が蔡焜燦氏から  
の委曲を尽くした心温まるメッセージ  
を代読しました（本誌18頁掲載）。ま  
た、小池百合子・衆議院議員などから  
の懇篤な祝辞が披露されました。

いよいよ李雪峰氏の登壇。前日に座  
間市で開催された「台湾高座会留日七  
十周年歓迎大会」への出席や当日の靖  
國神社参拝の疲れも見せず、「日本と  
台湾・友好の絆—台湾高座会と日本—  
と題した講演に臨まれました。

李雪峰氏は冒頭、叙勲について「こ  
の叙勲は私一人に与えられたものでは  
なく、会員全員に与えられたもの」と  
受章の意義を述べ、続いて昭和十八年

五月九日に高座海軍工廠に入廠した台  
湾少年工の生活ぶりなどについてお話し  
いただきました。

「台湾で全国大会を開くたび、当時、  
高座海軍工廠があつた大和村の人々か  
ら芋を分けてもらったり、セーターや  
手袋などをいただくなどの温かい気持  
ちを『高座の情』と皆が言い表すよう  
になり、大和を第二の故郷と呼ぶよう  
になりました。機会があれば第二の故  
郷を訪れたいと思っていました」

とつとつ  
訥々とした話しぶりに誠実な人柄が



「高座の情」「大和は第二の故郷」など、台湾高座会を通  
じた日本との絆について講演される李雪峰会長。

にじみ出る李雪峰氏のお話で、来日五十周年にあたる平成五（一九九三）年には千四百名もの台湾少年工と一緒に訪問したこと、名古屋で九死に一生を得たこと、来日するたび六十名の仲間が祀られている靖國神社を参拝していることなどについても話されました。

李雪峰氏は李登輝民主協会の常務理事もつとめ、本会から毎年贈っている桜の担当役員でもあることから、これまで烏山頭ダムなどに植樹してきたことなどを紹介するとともに、現在、日月潭の湖畔に植樹する計画もあることを披露されました。

その後の質疑応答では、子供たちに日本統治時代のことをそれぞれの家庭で伝えてきたと答え、前日の九日に開かれた台湾高座会留日七十周年歓迎大会については、石川公弘・高座日台交流の会会長が詳しく説明、閉会の時間をオーバーするほどでした。

閉会の挨拶は黄文雄・副会長。台湾少年工を強制連行して日本に連れてき



講演後の質疑応答で日本統治時代に関する質問に、それぞれの家庭で伝えてきたと答えられる李雪峰会長。

たという誤った説を流布する日本人がいるが、これを正しているのが台湾少年工出身者でつくる台湾高座会の方々であると紹介、安倍政権下で日台関係はますます深まると述べ、二時間にわたった講演会を締めくくりました。

### ◆百五十名が着座して清宴

引き続き開かれた懇親晩餐会は、目黒雅叙園の中でもっとも広い「舞扇」の間で開かれ、司会は梅原克彦・本会



目黒雅叙園でもっとも広い会場に150名が集い、美味しい料理と台湾の話に盛り上がった。

常務理事（前仙台市長・国際教養大学教授）がつとめました。

百五十名ほどが十八テーブルにそれぞれ分かれて着座する中、開会の挨拶は岡崎久彦・副会長。

これまでなぜ李元総統が台湾独立について積極的に話さず、台湾の民主化に重点を置いてきたのか最近になってようやく得心が行くようになったと述べ、民主化した台湾が一国独裁の中国に制圧されることを、建国の精神を持つアメリカが許さないことはこの国民

党政権の六年間ではっきりし、台湾の民主化が独立につながっているからだったと、解説を交えて挨拶しました。

続いて、来賓として西村眞悟・衆議

院議員と斎藤毅・台湾協会理事長が挨拶。

西村議員は主権回復の意義について、回復すべきは軍隊であり、日本と運命共同体である台湾を取り戻すことと力強く述べ、斎藤理事長は李雪峰氏の叙勲について、叙勲は憲法に定める天皇の国事行為の一つであることを明かして祝意を表しました。



岡崎久彦副会長の挨拶に聞き入るメインテーブルの李雪峰会長、田母神俊雄、小田村四郎会長、明石元紹、渡辺利夫、斎藤毅、西村眞悟の各氏。

乾杯の発声は、明石元二郎総督令孫の明石元紹氏が行い、日本人が一番心を開いているのは台湾の人々であるとして、李元総統と蔡焜燦氏のご健勝与李雪峰氏の叙勲に祝意を表して杯を挙げ、清宴の開糧となりました。

李雪峰氏や小田村会長、岡崎副会長が同席するテーブルをはじめ、田久保副会長や金田秀昭・元海上自衛隊護衛艦隊司令などのテーブル、アパグループ代表で理事の元谷外志雄氏・芙美子夫妻のテーブル、吉田信解・埼玉県本



懇親会も終わりに近づき、1部の司会を務めた王理事と2部の司会を務めた梅原常務理事にも安堵の表情。

庄市長や大宮の清水園代表で理事の清水志摩子氏、橋本理吉・高座日台交流の会事務局長のテーブルなど、それぞれのテーブルで旧交を温めたり、台湾訪問の折に李元総統にお会いしたことなどの話が飛び交い、また料理のうまさや各テーブルの話をいっそう盛り上げたよう、途中からはテーブルを超えての交流もはじまりました。

最後に、田久保忠衛・副会長が閉会の挨拶。李元総統がメッセージで「台湾は存立し得ない」と述べられていたことについて、この一言を確認できただけでこの会を開いた意義は尽きるとして、李雪峰氏に御礼を述べ盛会裡に終了しました。

なお参加者には、李元総統がこの日のために用意された講演草稿「第三の道」（本誌4頁掲載）と、自ら「我不是我的我」（私は私でない私）と揮毫された「オリジナル文鎮」がもれなくプレゼントされました。